

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向

令和3年度7月号

○ 概要

(1) 令和3年7月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同じ。）は6,472億円（伸び率（対前年度同期比。以下同じ）+1.6%）で、処方箋1枚当たり調剤医療費は9,445円（伸び率▲3.1%）であった。（→P.1~2）

調剤医療費の内訳は、技術料が1,731億円（伸び率+8.3%）薬剤料が4,728億円（伸び率▲0.7%）、薬剤料のうち、後発医薬品が949億円（伸び率+1.3%）であった。（→P.4）

(2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方箋1枚当たり薬剤料5,536円（伸び率▲5.8%）を、処方箋1枚当たり薬剤種類数、投薬日数、1種類数1日当たり薬剤料の3要素に分解すると、各々2.74種類（伸び率▲0.1%）、27.8日（伸び率▲1.5%）、73円（伸び率▲4.4%）であった。（→P.8,9）

(3) 内服薬の薬剤料3,793億円（伸び幅（対前年度同期差。以下同じ。）▲50億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは39 その他の代謝性医薬品の683億円（伸び幅+19億円）で、伸び幅が最も高かったのは42 腫瘍用薬の+35億円（総額433億円）であった。（→P.13~19）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	3,793 億円 (▲50 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(683 億円)	21 循環器官用薬 (636 億円)	11 中枢神経系用薬 (600 億円)
0歳以上 5歳未満	23.5 億円 (+5.7 億円)	44 アレルギー用薬 (8.0 億円)	22 呼吸器官用薬 (4.6 億円)	61 抗生物質製剤 (3.8 億円)
5歳以上 15歳未満	75.2 億円 (+4.4 億円)	44 アレルギー用薬 (26.9 億円)	11 中枢神経系用薬 (23.3 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(5.5 億円)
15歳以上 65歳未満	1,359 億円 (+18 億円)	11 中枢神経系用薬 (290 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(261 億円)	21 循環器官用薬 (196 億円)
65歳以上 75歳未満	910 億円 (▲13 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(198 億円)	21 循環器官用薬 (174 億円)	42 腫瘍用薬 (140 億円)
75歳以上	1,425 億円 (▲66 億円)	21 循環器官用薬 (262 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(218 億円)	11 中枢神経系用薬 (190 億円)

(4) 処方箋1枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では9,445円（伸び率▲3.1%）で、最も高かったのは高知県（11,297円（伸び率▲2.3%））、最も低かったのは佐賀県（7,902円（伸び率▲4.0%））であった。

また、伸び率が最も高かったのは熊本県（伸び率▲0.9%）、最も低かったのは福井県（伸び率▲6.6%）であった。（→P.31~32）

《《後発医薬品の使用状況について》》

【後発医薬品割合】（→P.39）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） ^{注）}	81.7 %	+1.3 %
薬剤料ベース	20.1 %	+0.4 %
後発品調剤率	78.0 %	+2.2 %
（参考）数量ベース（旧指標）	59.4 %	+2.4 %

注）〔後発医薬品の数量〕 / （〔後発医薬品のある先発医薬品の数量〕 + 〔後発医薬品の数量〕）で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.40~41）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	+1.3 %	+42.7 % (0歳以上 5歳未満)	▲6.7 % (75歳以上 80歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	20.1 %	29.2 % (100歳以上)	10.9 % (10歳以上 15歳未満)
後発医薬品割合（数量ベース、新指標）	81.7 %	86.6 % (100歳以上)	74.3 % (10歳以上 15歳未満)

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.46~50）

年齢区分	内服薬 総額 （伸び幅）	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	815 億円 (+1 億円)	21 循環器官用薬 (245 億円)	11 中枢神経系用薬 (141 億円)	23 消化器官用薬 (103 億円)
0歳以上 5歳未満	8.3 億円 (+3.0 億円)	44 アレルギー用薬 (3.8 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.9 億円)	61 抗生物質製剤 (0.8 億円)
5歳以上 15歳未満	13.0 億円 (▲0.6 億円)	44 アレルギー用薬 (7.6 億円)	11 中枢神経系用薬 (1.7 億円)	22 呼吸器官用薬 (1.4 億円)
15歳以上 65歳未満	272 億円 (+3 億円)	21 循環器官用薬 (71 億円)	11 中枢神経系用薬 (58 億円)	23 消化器官用薬 (30 億円)
65歳以上 75歳未満	196 億円 (▲1 億円)	21 循環器官用薬 (74 億円)	23 消化器官用薬 (24 億円)	11 中枢神経系用薬 (23 億円)
75歳以上	326 億円 (▲3 億円)	21 循環器官用薬 (99 億円)	11 中枢神経系用薬 (58 億円)	23 消化器官用薬 (49 億円)

【後発医薬品 都道府県別】（→P.55~60）

	全国	最高	最低
処方箋1枚当たり後発医薬品薬剤料	1,386 円	1,810 円(北海道)	1,161 円(佐賀県)
処方箋1枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	▲3.3 %	+0.0 %(秋田県)	▲5.7 %(福井県)
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	81.7 %	89.1 %(沖縄県)	78.1 %(徳島県)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	20.1 %	23.5 %(鹿児島県)	17.2 %(京都府)
後発医薬品調剤率	78.0 %	84.2 %(沖縄県)	73.7 %(東京都)
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	59.4 %	66.9 %(沖縄県)	55.4 %(東京都)

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 令和3年7月現在の電算処理割合は、処方箋枚数ベース、医療費ベースともに約99%である。